



みせん

瀬戸内海国立公園
宮島地区パーク
ボランティアの会

第102号

発行日
令和7年12月1日

◇ 目 次 ◇

- | | | | |
|-----|----------------------------|------|--|
| P-2 | : 救急救命講習会 | P-8 | : 紅葉谷公園補修・清掃作業 |
| P-3 | : 会発足 25 周年記念行事
宮島水族館見学 | P-10 | : スカイ歩道整備・清掃作業 |
| P-4 | : 入浜池定点観察 ②
入浜池維持管理作業 ① | P-11 | : 投稿① 俳句
投稿② 松山情報
(松山城の自然などのご紹介) |
| P-7 | : 自然公園クリーンデー清掃作業 | P-13 | : 編集後記 |

「 会発足 25 周年記念行事 宮島水族館見学 」



2025 年 8 月 30 日撮影

宮島地区パークボランティアの会発足 25 周年記念行事の宮島水族館バックヤード見学を実施しました。

2001 年 7 月以来でしたがミヤジマトンボ幼虫飼育状況観察、魚に与えるえさ作り・えさやり等を観察し、地味な仕事でありますですが裏方で働く水族館職員に感謝感激です。

(文 : 末原 写真 : 河野)

救急救命講習会

日 時：8月2日（土）9:30～12:20

場 所：廿日市市消防本部

行事推進員：黒川 森脇

参加者：伊藤 岩崎 恵田 黒川 河野 末原

山本(昌) 以上7名

廿日市市消防本部にて「救急救命講習会」が行われました。消防士の西様と中様を講師としておむかえし、

- ・DVD鑑賞
- ・心肺蘇生法
- ・AED体験
- ・熱中症

の順番で講習を受けました。

1. 救急隊が来るまでの9分間 命をつなぐ

最初にDVDを鑑賞しました。傷病者を発見したら、その場に居合わせた人で救急隊が来るまで救命するという事が大切という事を学びました。

- ① 傷病者、自らの安全確保
- ② 反応を確認する
- ③ 大きな声を出して近くにいる人に応援を求める
- ④ 具体的に応援者を指さして「119番」通報する人、「AED」を持ってきてもらう人を決める
- ⑤ 胸骨圧迫と人工呼吸、AEDを使用し救急隊が来るまで協力して救命処置を続ける

2. 心肺蘇生法実習

模型を使って胸骨圧迫、人工呼吸の実習にはいりました。

① 胸骨圧迫

胸骨の位置を確認し、手のひらを重ね真上から胸が5cm程沈み込むようにしっかりと圧迫します。速さは「もしもしかめよ」のテンポです。

② 人工呼吸

傷病者のあご先をあげて、鼻をつまみ、息を一秒かけて吹き込みます、続けてもう一回吹き込む。胸骨圧迫30回やり、人工呼吸を2回吹き込む、これを1セットとして、絶え間なく続ける。

実習して感じたのは、人の胸を強く圧すという事に躊躇してしまいますが、骨折をしたとしても命をつなげる方が大切という事、そしてとても力のいるという事を感じました。強く早く絶え間なく続けるには協力者が数人必要と痛切に感じました。

3. AED体験

AEDの電源を入れ、傷病者の胸に電極パッドを貼る。その後AEDの指示に従う。一度AEDを体験したので、万が一の時も落ち着いて使用できる自信がつきました。あと自宅や職場の近くでAEDがどこにあるか把握することも大切だと感じました。

4. 热中症講座

熱中症をおこす要因、予防を学び、熱中症の人が近くにいた場合の対処方法を学びました。

5. パークボランティア活動中に救命処置が必要になった場合

- ・登山道などで傷病者がいた場合、なるべく広い平らな場所まで周りの人と協力して運ぶ
- ・二次災害が起きないように斜面に気をつける
- ・出血している場合、ハンカチなどで圧迫して止血する
- ・登山道まで救急隊が来るまでかなり時間がかかるので、それまで周りの人達と絶え間なく救命処置を続ける

最後に修了証をいただきました。日々、私達の生活、安全にご尽力なされている消防隊員の方々に感謝するとともに、一度体験する事により、より多くの人の命をつなげる事ができるこの講座をよりたくさん的人に受けさせていただきたいと思いました。



（文：伊藤 写真：河野）

会発足 25 周年記念行事

宮島水族館見学

日時：8月 30日（土）9:00～12:00

天気：曇りのち雨

場所：宮島水族館

行事推進員：黒川 森脇

参加者：青木 岩崎 上杉(裕) 上杉(幸)

大林 小川 折出 恩田 黒川 河野 末原

千日 兎谷 豊原 中丸 中道 長村 畑野

穂井田 幸田 松尾 松田 三戸 森

山本(昌) 以上 25名

環境省：大高下 AR



水族館職員挨拶



バックヤード見学



バックヤード(餌作り見学)



バックヤード(餌やり体験)



大水槽(スナメリ)

(文：松尾 写真：河野)

入浜池定点観察②

入浜池維持管理作業 ①

日時：9月20日（土）9:00～12:00

天気：曇り

場所：入浜池

行事推進員：

- ・観察部会：大西 小川 豊原 穂井田
松田 元広

- ・環境整備部会：種本 長村

参加者：小川 折出 河野 豊原 中丸 中道 長村

穂井田 弁田 松田 村上（慎）森
山本（昌） 以上 13名

【維持管理作業】長村

水路は、勢いよく流れていて水がきれいでした。でも、乱れた土嚢がかなりありました。男の人が大変重そうに運んで直されました。

海岸は、ごみラインが二本もあり、たくさんの牡蠣パイプと発泡スチロールが打ち上げられていました。すぐにごみ袋がいっぱいになって、取りきれませんでした。新しい長いパイプ（約20cm）が、まだたくさん残っています。



集合写真

【水質調査】小川会員

調査班：小川 豊原 弁田

調査日等	2025年9月20日（土）/ 調査開始時の気温25.5°C / 前日（晴）							
天文潮位	広島湾 満潮 8:41(潮位330cm) 干潮 14:55(潮位55cm)							
地点	A	B	中央	C'	D	E	F	山水
調査時刻	9:38	9:45	9:53	9:56	10:05	10:15	10:22	10:36
水流等	なし	なし	なし	あり	なし	なし	あり	△△
油膜・濁り等	なし	なし	なし*	なし	なし**	なし	あり***	なし 濁りあり
杭(±cm)	-5	-3.5	-7.5	0	杭なし	-9	-7	△△
水温(°C)	24.7	25.3	22.1	20.2	23.0	24.9	25.7	21.9 26.7
水深(cm)	2	11	6	2	1.5	2	7	14 15
pH	7	7	7	7	7	7	7	7
塩分(%)	0.00	0.02	0.00	0.00	0.00	0.02	0.05	0.00 2.48
COD	8以上	6	8以上	2	0	8以上	8以上	0 △△

*:中央地点水中にミジンコのような生物が多数いた。

**:D地点付近では底に緑色の藻類が多数認められた。

***:F地点付近では油膜が認められ、発泡スチロールの粒が多数集まっていた。

・山水の100バケツ満水時間は49秒。（バケツに集められない水が多くかった。）

・水路が波打ち際まで通っており、池の水が海まで流れ出していた。

・水路の流量を道路側の壁が崩壊から石になる所で測定、43.2m³/hであった。

・全調査地点でメダカが確認できなかった。

・C'～D付近にイシシの糞あり。シカ足跡多数あり。

酷暑であったが8月後半から雨がよく降った。池は水位が高く、C'地点では湧水が流れ、池の周囲はぬかるんでいた（写真1）。山から池へ水がかなり供給されているようだが、海側のB、E、F地点で0.02～0.05%の塩分が測定されたので、満潮時に海水が流入している可能性がある。

池の水がF地点から水路を通って海まで流れ出していたため（写真2）、水路の流量を測定した。水深方向の流速を一定と仮定すると、水路幅0.8m、水深0.05m、流速0.3m/sであったので流量は43.2m³/hとなる。つまり、1時間に200ℓの浴槽216杯分の水が水路を流れていることになる。



写真1（撮影：河野）



写真2（撮影：河野）

【池の周囲での気付き】

今回印象的だったのは、写真 1 のように水際から広範囲にぬかるみとなり短い草が茂っていたことである。過去 2 年の 9 月の調査では池の周囲は乾き、草がほとんど生えていなかった。その状況は、2023 年 9 月はみせん 94 号 P4、2024 年 9 月はみせん 98 号 P3 ~4 の写真を参照してください。入浜に近い大竹市の 7~9 月の降水量を気象庁ホームページで調べてみると、やはり今年の 8~9 月の降水量は、過去 2 年と比べると多くなっている（表 1）。

2023~2025年7~9月の大竹市降水量（mm）

	2023年	2024年	2025年
7月	333.0	269.5	102.5
8月	98.5	158.0	260.0
9月(*)	39.0	0.0	194.0

(*) : 9 月は調査日までの降水量の合計

表 1

- ・入浜到着時に尻の赤い大きなオスザル他数頭が池の周囲から東側の藪に移動した（写真 3）。近くを調査中は、藪の中からガッガッとこちらを威嚇するような鳴き声がしていた。C' 地点付近の複数のカンコノキの根元が掘られていた（写真 4）。池の西側の渋柿の木の下にかじりかけの青い柿が落ちていた。
- ・D から E 地点へ大回りして行く途中にシロソウメンタケが叢生していた。調査後のミーティング中、西の藪からシカの群れが現れた。大角の雄ジカ 3 頭確認。大角のシカ（A とする）の数 m 前を別の大角のシカ（B とする）が横切るとき、A が B に対し頭と角を下げ、前脚で地面をかいて威嚇した。繁殖期に入っているようだ。



写真 3（撮影：河野）



写真 4 矢印：根と根の間に足跡か？

【野鳥観察】穂井田 敏哉

調査班：穂井田 中丸

命の危険を感じる暑さの中で、自宅のクーラーの効いた部屋に 2 ヶ月閉じこもっていました。

9 月中旬に漸く朝夕涼しくなってきました。この夏、日本各地で繁殖した夏鳥たちが、南に向けて渡りを始める時期になりました。

広島市内でも、すでに渡り途中の野鳥が観察できているので、期待して入浜の定点観測にのぞみましたが、残念ながらいつも見られる留鳥が観察できただけでした。

イノシシの親子がいつもの観察フィールドに現れました。

入浜 野鳥定点調査 曇り 9:30~11:30

種名	数	種名	数
キジバト	1	シジュウカラ	1
カワウ	1	ツバメ	1
アオサギ	2	ヒヨドリ	1
コサギ	1	イソヒヨドリ	1
ミサゴ	2	ハクセキレイ	2
トビ	5	セグロセキレイ	1
ハシボソガラス	5		
ハシブトガラス	1	合計	14種

季節区分 冬鳥 夏鳥 留鳥

季節区分は、『ひろしま野鳥図鑑』（2002 年 日本野鳥の会広島県支部（編）中国新聞社刊）による。



トビ



ミサゴ



イノシシ

【植物観察】 山本 昌生

調査班：山本

◊ヒトモトスキ調査

9月は雨が多かったため、水が多く池の周辺は湿り気がありカヤツリグサ科のテンツキの仲間がまるで芝生のようにびっしりと生えていました（写真1）。前回の4月の調査に比べて、ヒトモトスキの数がさらに減少していて、池周辺のやや乾いていてシカが侵入できる場所ではシカよけネットで保護した2か所以外のヒトモトスキはほとんどなく、池内にいくつかの株が残っている状況でした。

シカよけネットで保護している2か所は、どちらも非常に大きくなり、ネット内全体に広がり、株ごとの成長を計測することは不可能な状態でした。ネットからはみ出ている葉はシカによる食害痕があり、ネットの高さ約60cmのネットBでは上からの食害により高

さが制限され、背の高いネットCでは草丈約130cmと大きくなっていました（写真2, 3）。



写真1. カヤツリグサ科のテンツキの仲間
(草丈約3cm)



写真2. ネットB：親株周りの実生の生育状況
(ネットの高さが約60cmと低いため大きくならない)



写真3. ネットC：新たに植えたヒトモトスキの生育状況（ネットが高いため、シカによる食害が少なく、大きく成長した）

◊ほかの植物の様子

開花植物：カンコノキ、ハマゴウ

結実植物：シロダモ、ダンドボロギク、クマノミズキ、ウリハダカエデ、ハマゴウ、ミミズバイ、ネズ、ハゼノキ

自然公園クリーンデー

清掃作業

日時：9月 27日（土）9:00～11:00

天気：晴れ

場所：4班に分かれて美化清掃作業

- ・杉ノ浦公民館～海岸県道経由桟橋、
- ・杉ノ浦公民館～旧陸軍道路経由桟橋
- ・小なきり海岸
- ・有之浦海岸

行事推進員：折出 兎谷 畑野

参加者：青木 岩崎 折出 恩田 河野 末原 兔谷

中丸 畑野 穂井田 幸田 森 吉賀

以上 13名

環境省：中口自然保護官

廿日市市役所： 8名

宮島を美しくする会：3名

一般参加者： 3名

昨年に続き、環境省と廿日市市の主催で行われた「自然公園クリーンデー」に参加しました。

清掃活動、ゴミの持ち帰り運動を通して島内の環境美化推進を図るイベントで、この日は連日の暑さが少し和らいだ秋空が広がる気持ちの良い一日でした。

中口自然保護官、廿日市市宮島支所長の挨拶の後、参加者に軍手と火ばさみ、黄色のゴミ袋が配られ、①杉ノ浦公民館～海岸県道経由桟橋、②杉ノ浦公民館～旧陸軍道路経由桟橋、③小なきり海岸、④有之浦海岸、の4つの班に分かれ清掃活動を行いました。

私は支所の車で杉ノ浦まで送っていただき海岸通りの道沿いのゴミを拾いながら桟橋をめざしました。送っていただく途中の車窓からは道路にゴミが落ちている様子は見当たらず、作業をする間もなく桟橋に着いてしまうのではと思いましたが、これは全くの杞憂でした。

車道や歩道は確かにほとんどゴミのない綺麗な状態でしたが、歩道脇の斜面にはペットボトルや空き缶、なぜか調理用の鍋などの日用品までが数多く投棄されていました。清掃

区間内には今年教えてもらったヒメボタルの生息地があり、林の中を神秘的に光りながら舞う姿に感動した思い出の場所も昼間見ると発泡スチロールやビニールゴミが散乱しており、とても悲しい気持ちになりました。

いっぱいになったゴミ袋を担いで桟橋に向かう途中で小なきり海岸担当の皆さんと合流、他の清掃場所の皆さんも良い汗を流されたようです。

廿日市市の市報でも案内が行われているこの「自然公園クリーンデー」。投棄ゴミの現状を知つてもらうためにも一般の参加者が来年はもっと増えてくれることを願っています。もちろん私も引き続き参加したいと思います。

（文：畠野 写真：河野 ）



中口自然保護官挨拶



小なきり海岸清掃



ゴミの分別



集合写真

紅葉谷公園補修 ・清掃作業

日時：10月18日（土）9:00～11:30

天気：曇り

場所：紅葉谷公園

行事推進員：上杉(裕) 上杉(幸) 三戸

参加者：青木 岩崎 上杉(裕) 折出 河野

末原 種本 中丸 長村 穂井田 三戸

村上(慎) 森 山本(昌) 吉賀

以上 15名

環境省：中口自然保護官 大高下 AR

新規会員養成研修者： 11名

作業当日の朝まで、雨が降るのか晴れるのか天気が気がかりでしたが、最終的には天気予報による中止の判断とはならず、曇り空の下で作業を実施することとなりました。

作業に先立ち、桟橋前広場に集合し、新規会員養成研修者と会員がそれぞれ自己紹介を行いました。その後、各自が清掃用具をひとつずつ持って山村茶屋まで歩きました。

昨年度まで協働していた「宮島さくら・もみじの会」が解散されたため、今年度からは当会単独での作業となりました。しかし、新規会員養成研修の皆さん 11名を含む総勢 28名の参加があり、大人数での清掃活動となりました。

作業内容は、側溝にたまつた土砂の除去と、その土砂を用いた道路の窪地の整地です。側溝には石や枯れ枝、張った根もあり、なかなかの重労働でした。それでも、紅葉の季節を前に訪れる多くの方々を気持ちよく迎えるため、皆で力を合わせて取り組みました。

作業後、綺麗になった道や溝を見て「やったな！」という達成感と心地よい疲労感を味わい、11時過ぎには無事作業を終えて山村茶屋前で解散しました。

私自身は体力と相談しながら休みつつ作業を進めましたが、慣れない作業で足腰に痛みを感じ、日頃の運動不足を痛感しました。

（文：三戸 写真：河野）



大高下 AR 挨拶



清掃作業方法の説明



側溝土砂除去作業



側溝土砂除去作業



側溝土砂除去作業



取り除いた側溝の土砂



側溝土砂除去作業終了



集合写真

スカイ歩道整備・ 清掃作業

日時：10月25日（土）9:00～10:45

天気：曇り

場所：包ヶ浦自然歩道（スカイ歩道）

行事推進員：佐藤 兎谷 長村

参加者：青木 伊藤 岩崎 河野 末原 中丸

村上（慎）森 山本（昌） 以上9名

新規会員養成研修者：9名

10月第3週に入って空気が入れ替わり、来島者の服装も半袖、短パンは、すっかり影を潜めました。

今回が2回目となる新規会員養成研修を兼ね、包ヶ浦自然歩道（スカイ歩道）の整備、清掃作業を行った。対象は、紅葉谷からスカイ歩道に続く歩道の途中まで約500メートルの区間。

新規会員養成研修者の方には、作業前に末原会長の説明を受け、3班に分かれてから指示された箇所に移動して作業開始。歩道の落ち葉は箒で、側溝に堆積した土砂、樹木枝等は、スコップで掘り起こしながら、路肩に集めて各担当箇所を整備した。

今回は、人数割での作業が奏功、予定時間より早く終了したこともあり、末原会長が希望された新規会員の方を、自然歩道内の巖島合戦の史跡：博打尾まで案内された。

包ヶ浦は、只今再開発計画の喧騒はあるが、そこに至る自然歩道は、これからも変わらぬ佇まいを届けてくれることを願って帰路についた。

（文：青木 写真：河野）



清掃前（スカイ歩道入口到着）



落ち葉の除去



清掃後の登山道



水路の土砂除去



登山道に土砂を入れ補修



集合写真

*** **投稿** ***

① **俳句** 大林 實

厳島脇に紅葉の原生林
紅葉谷底に底にしづめし紅葉かな
シヤーレに飼育ミヤジマトンボかな
色変らぬ松美しき嚴島

② **松山情報** 二神 朋子

「番外編～松山城の自然などの紹介～」

今、広島県を離れ愛媛県にいますので、今回は松山城についてご報告をさせていただきます。

松山城は、山やお堀の自然に囲まれ、歴史と文化が今も残り、観光地であるとともに市民の憩いの場で、また土砂災害などの自然災害の影響も受けしてきたという点で、宮島とも共通点があるかと思います。



写真 1 天守

(1) 概要

松山城は、松山平野のほぼ中央にある標高132mの勝山の、頂上に天守、山麓に二の丸、麓に三の丸があり、その周りを水堀が囲んでいます。築城は江戸時代初めの1602年から始まり、約30年で完成。天守は、江戸時代中期に雷で全焼したりしましたが、幕末の1852年に再建され、現存12天守の一つです。また、門や櫓も、火災や太平洋戦争で多く焼失しましたが、昭和40年代に殆ど木造で復元されています。

山頂の本丸広場には、今は桜や梅が植樹され、春には満開の花を楽しめます。

山頂からは360度の眺望が広がり、市内はもちろん、東には石鎚山、南には佐田岬、西には瀬戸内海が一望できます。

天気の良い日には、北に広島県の島々も見ることができます。



写真2 本丸広場



写真3 山頂から、西の瀬戸内海方面

(2) 自然など

城山は今は深い緑で覆われていますが、築城時には防備のため、木は植えられて無かつたそうです。その後、カラ松が植えられ、自然増などでツブラジイ、クスノキ、アラカ

シ、アベマキなどの大木、常緑樹、シダ類などが育ち、今は自然の宝庫となっています。



写真4 麓から見た城山、天守など



写真5 石垣と樹木

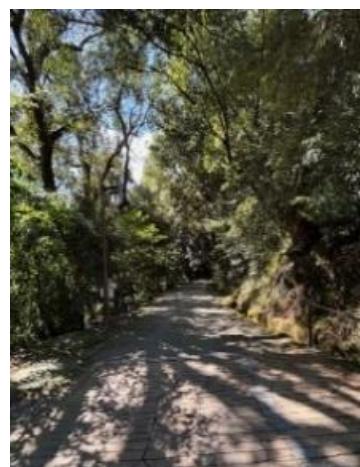


写真6 登城道の木立

鳥も多く、コゲラ、カラ類、メジロなどは年中、春から夏はヤブサメ、キビタキなど、秋から冬はジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、イカルなどが観察されているそうです（日本野鳥の会HPより）。

(3) 登城道

山頂へはロープウェイのほか、歩いて20分ほどの登山道が4本あり、毎日多くの市民

が上り下りし、健康づくりや自然観察を楽しんでいます。街の真ん中でありながら、春には新緑、夏には涼しい木陰と野の花、秋には虫の音やドングリなども楽しめます。

また、登城道には、江戸時代の石垣や石畳も残っています。



写真 7 石垣



写真 8 登城道に残る石畳

大手口の門近くでは、丁石を一つ見つけました。文字は「六〇号」のように見えます。



写真 9 丁石

(4) 市民活動

松山城でも様々な市民団体が活動しています。観光案内ボランティアのほか、文化財の

保存・清掃や紹介を行うグループ、野鳥の会などが、ここ松山城を拠点の一つとして活動しています。

松山城は、宮島に比べると規模も小さいかもしれません、自然と歴史は、どこの地域でも市民にとって大切なものだと感じます。また時代の変化や自然災害などから守り、復活させてきた先人たちへの敬意を感じます。

皆様も次お越しの際は、またいろいろな視点で松山城を楽しんでみてください。

補足：二神会員は現在は愛媛県在住です。この度、松山城についての記事を頂きましたので記載しました。

◇ 編集後記 ◇

102号は編集担当の移行期で遅れが発生しました。コミュニケーションの不足が主因と思い反省しています。103号は予定通りに発行したいと思っています。

私事、1か月ほど紅葉を眺めに京都に行つてきました。中でも環境省管理の京都御苑は建築物、松や紅葉など植栽の維持管理は素晴らしい、国内外の観光客が紅葉や公開施設見物でのんびりと過ごしていました。（麻生）



御所内を散策

瀬戸内海国立公園 宮島地区パークボランティアの会

事務局：環境省 中国四国地方

環境事務所 広島事務所

(〒730-0012)

広島市中区上八丁堀 6 番 30 号

広島合同庁舎 3 号館 1 階

TEL082-223-7450、FAX082-211-0455